通巻620号

紅葉坂

教会だより

2021年1月 NO.4
横浜市西区宮崎町1
日本キリスト教団
紅葉坂教会
牧師　荒井仁

説教

「家畜小屋のイエス」

荒井　仁

ルカによる福音書
2章1節～20節

イエスが誕生したのは家畜小屋でした。家畜小屋は宿の中の部屋とは違って密閉されていません。壁で完全に仕切られているのではありませんから、冷たい風が吹き込めば頬にそのまま当たって、思わず首をすくめるようなことがあったかもしれません。

中世のキリスト教絵画にこの場面をテーマに描いた作品が数多く残されています。それらのほとんどが小屋の後ろの景色が見通せる中でイエスが誕生した様子を描いています。星の輝きも小屋の中から見えています。いずれもこの場面を想像した上での作品ですが、密閉されていない家畜小屋の現実を表しています。外の風の音、人の話し声なども聞こえるところで、イエスは人生を始めました。

8節から羊飼いたちの話に移ります。羊飼いたちが野原で夜通し羊の群れの番をしています。彼らのもとに天使がやって来て喜ばしい報せを告げました。

「今日、ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。あなたがたは布にくるまって飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなた方へのしるしである。」

天使の言葉に続いて天使の大軍が登場し賛美を歌います。「いと高きところには栄光、神にあれ。地には平和、御心に適う人にあれ。」

この後、羊飼いたちはベツレヘムの町に行きます。そしてマリアとヨセフ、また飼い葉桶に寝かせてある乳飲み子イエスを捜し当てました。この時に羊飼いたちはどうやってイエスを捜したのでしょうか。聖書には書いてありませんが一つ考えられることがあります。それは町の中に入ってから、赤ちゃんの泣き声をたよりに捜したのではないでしょうか。彼らが宿屋を一軒一軒回って戸を叩いて尋ねたとは考えられません。羊飼いは町の人にあまり歓迎されていないので、夜中に寝ている宿屋の主人を起こせば怒られるのは分かっています。家畜小屋に寝かされているイエスの泣き声は遠くからでも聞こえたことでしょう。風も吹き抜けて外にまで声や音も聞こえる家畜小屋に生れたからこそ、羊飼いたちは乳飲み子イエスを捜し当てて会うことが出来ました。彼らはヨセフとマリア、そして家畜小屋にいた人たちに天使の話を伝えました。それから賛美をしながら羊たちのいる野原へと帰って行きました。

壁や扉で閉じられていない家畜小屋、誰でもがそこを覗き込んで立ち入ることが出来る場所にイエスが生れました。外の音が中に入り、中の音が外に出る、そして羊飼いたちも受け入れられる、家畜小屋が誰にでも開かれている様子は、神の心の広さを象徴しているかのようです。神が心を開いてイエスをこの世界に贈られたので、交わりから遠ざけられていた羊飼いたちもイエスに会うことが出来ました。イエスは家畜小屋に生れたからこそ、私たちもイエスに会うことが出来ます。神は私たちに心を開いてイエスと会えるようにしてくださいました。次は私たちが心を開いて、イエスを受け入れる番です。それは多くの人々がイエスと出会えるようになるためです。

コロナの状況下で経済的困難を抱える人がいます。生活の大きな変化に戸惑い悩む人、学びに困難を覚える人、将来に不安を感じる人がいます。イエスの愛、神の愛を必要とする人々が、色々なところにいます。その人たちに愛と希望を届けるために、私たちも心を開いてイエスの誕生の恵みを多くの人々に伝えたいものです。

（2020年12月24日燭火賛美礼拝説教より）